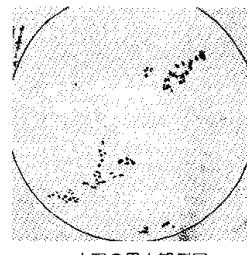
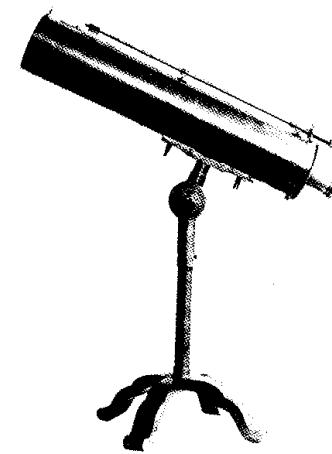


宇宙をのぞいた二人の男



太陽の黒点観測図



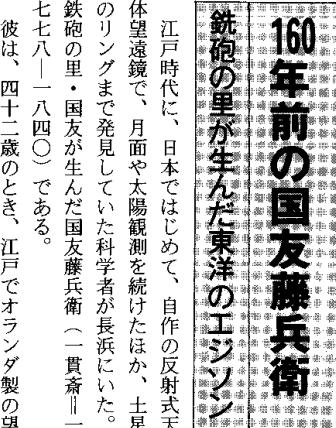
藤兵衛作の反射天体望遠鏡
全国に4台現存している



自作の望遠鏡で観測した月面のスケッチ



国友藤兵衛（一貫斎）



江戸時代に、日本ではじめて、自作の反射式望遠鏡で、月面や太陽観測を続けたほか、土星のリングまで発見していた科学者が長浜にいた。鉄砲の里・国友が生んだ国友藤兵衛（一貫斎）一七七八（一八四〇）である。

彼は、四十二歳のとき、江戸でオランダ製の望遠鏡を見て、帰郷後自らの手で製作した。レンズは水晶を研磨し、反射鏡は銅とズズの合金、鏡筒は真ちゅうで作っている。倍率七十倍。ちょうど月面がファインダーいっぱいになる精度である。天保三年（一八三二年）に製作に着手し、翌年には月面や木星、土星などを観測、天保六年から七年にかけては二百日をこえる太陽黒点の連続観測を行い、黒点移動も確認している。

お月さんにはウサギがいてモチつきをする、と信じられていた時代に、星空に胸をおどらせ、夢をはせた人が長浜にいた、なんて信じられないくらいである。彼は望遠鏡のほか、気砲（空氣銃）、距離測定機、玉燈（照明器具）、ポンプ、懷中筆（毛筆ペン）なども発明し東洋のエジソンと言われている。

現代の岩崎賀寿彰

湖北が生んだ世界の宇宙画家



あまりの精密さゆえにNAS

A（アメリカ航空宇宙局）の専門家たちを驚嘆させたといふ

ペースアート（宇宙画）の世界的権威・岩崎賀寿彰（本名敏二）

さんも、湖北が生んだ傑物である。

百五十億年前のピックパンから太陽系惑星まで、彼の作品は

「これが絵か、天体写真ではないのか」と見る人をうならせる繊細さ。人工衛星などによる膨

大なデータと自らの観測による

事実にもとづいて描かれているからである。今や日本では彼の右に出る人はいない。世界的にも宇宙画の三巨匠のひとりと言われるほどだ。

岩崎さんは、昭和十年大連市生まれだが、少年時代は東淺井郡浅井町野田で過ごされている。十三歳のとき、五インチ反射望遠鏡のレンズを自作したことがあるが、昭和三十八年に大阪へ進出されて以来頭角をあらわし、現在は東京へ事務所を移して活躍されている。

湖北発! MIDNIGHT

湖北の夜てどんた
んやろ。

伊吹山のふもとから仰ぐ星空

伊吹山は、深田久弥の「日本百名山」にもあげられている霊峰です。夜、伊吹山のふもと山東町から東の空を見上げると、冬にはナーチャースキーの照明、夏には夜間登山をする人たちの灯火の行列が望めます。

そして、漆黒の夜空を仰けば満天の星の輝き。冬には、オリオン座やすばる、ふたご座などの星々が、伊吹山から昇ってきます。美しく輝く星の数々が、北の空を中心にして大きく弧を描いて、天空を回っていく様子を見ていると、わたしたちが宇宙船地球号に乗船していることを実感できるのです。



風の街には真夜中にも人が来る

「風の街」 CANS CITY II にある「夢工場」。なかなかうまいネーミングだと思います。昼間からお客様の途絶えることのないレンタルビデオの店。夜も遅いのに、お客様がまだ何人かいる。店員さんから「今日はまだ少ないほうですよ。」と返事がかえってくる。ボーリング場はすでに閉店していて、他にはレストランが営業しているだけだ。

24時間営業の「ンビ」も出現

利用客は独身男性が多いかと思つていたら、意外にも女性や若いカップルのお客さんも多いうだ。近ごろは二十四時間営業の店もできて、都会ならともかく、この長浜で三時や四時に人が来るのだろうかと思つて聞いてみたら、「深夜でもパラパラとお客様は来てくれます。」との店員さんの答え。

五年ほど前には、二十時以降は完全に眠つていた長浜が、確かに便利になつたものである。

「夜の豊公園ってスキよ。公園のまんなかに大きな噴水があるでしょ。夜になるとスッゴクきれい。赤とか緑とかの水が夜空に広がってね、バックにお城があるワケ。それで星が出ていたら、ロケーションとしては最高ね。夜桜の季節もきれいだけど、ヨーバライのオジサンがたくさんいるでしょ。彼と一人だけになりたくて来ているんだから。少し暖かくなったら、普段の日のなんにもない夜がねらい目ね。」と教えてくれたのは、彦根からやってきた女性。みなさんのなかにも「一人のきっかけは夜の豊公園」というお話が多いのでは?

豊公園の恋人たち

